

パターンⅡ【先入先出法・等価比率の計算表】

B工場では、同一工程で等級製品甲と乙を連続生産している。製品原価の計算方法は、1か月の完成品総合原価を製品1本当たりの容量によって定められた等価係数に完成品量を乗じた積数の比で各等級製品に按分する方法を採用している。次の【資料】にもとづいて、次の問に答えなさい。なお、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品に配分する方法は先入先出法を用い、正常仕損は工程の途中で発生したので、度外視法によること。この仕損品の処分価値はゼロである。

【資料】

1. 生産データ

月初仕掛品	200本 (50%)
当月投入	<u>2,000本</u>
合計	2,200本
正常仕損品	200
月末仕掛品	<u>400本 (50%)</u>
完成品	<u><u>1,600本</u></u>

(注) 完成品は、甲が400本、乙が1,200本である。また、材料は工程の始点で投入し、()内は加工費の進捗度である。

2. 原価データ

月初仕掛品原価	
原料費	1,400,000円
加工費	<u>1,640,000</u>
小計	<u>3,040,000円</u>
当月製造費用	
原料費	14,400,000円
加工費	<u>27,360,000</u>
小計	<u>41,760,000円</u>
合計	<u><u>44,800,000円</u></u>

3. 当製品1本当たりの容量 (単位: ml)

- 甲 720
- 乙 360

問1 積数の比である等価比率の計算表を完成しなさい。

等 価 比 率 計 算 表

等級製品	容 量	等価係数	完成品量	積 数	等価比率
甲	720ml	2	400本		%
乙	360ml	1	1,200本		%
					100%

問2 当月の月末仕掛品原価、当月の完成品総合原価、甲製品の完成品単位原価、乙製品の完成品単位原価をそれぞれ答えなさい。

当月の月末仕掛品原価

円

当月の完成品総合原価

円

甲製品完成品単位原価

円/本

乙製品完成品単位原価

円/本

参考メモ【総合原価計算表・仕掛品ボックス】

等級別総合原価計算表

(単位：円)

	原 料 費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価			
当月製造費用			
合 計			
差引：月末仕掛品原価			
完成品総合原価			

仕掛品－原料費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 費
	月末有高

仕掛品－加工費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 費
	月末有高